



光のじっけん室 > カメラを作ってみよう

特殊フィルターを作ろう

映画の中で、主人公がめまいを感じたり、過去を思い出したりするシーンを作りたいときがあります。でも、映像でそのようなふん囲気を表すのはなかなか難しいもの。そこで、いろいろな特殊フィルターで、工夫してみましょう

用意するもの

- 10cm四方のとう明アクリル板
(厚さ2~3mm。ガラス板でも良いが、ケガにじゅうぶん注意して下さい)
- 黒い紙
- はさみ
- ワセリン(とう明なクリームなどでも代用できます)
- 綿棒
- きりふき

すすめ方

とう明アクリル板に、以下にしようかいるような加工をして、レンズの前にかざして撮影(さつえい)します。

<めまいを感じる>

綿棒にワセリンをほんの少しつけ、アクリル板の中央部、直径1~1.5cmを残して円をかくようにぬりつけます。まん中がシャープに、周囲はぐるぐる巻きのうすのように写ります。

<過去を思い出す>

綿棒にワセリンをほんの少しつけ、アクリル板に5~10mmぐらいの間かくで線を引くようにぬりつけます。回想シーンに入る直前に、この線が縦になるようにアクリル板を持ち、横からずらしてレンズの前にかぶせていくと、思い出が波のようにやってくるふん囲気になります。

<きりの中(空想の中)>

ごくごく少量のワセリンを、アクリル板の表面に薄(うす)く、むらなくぬりつけます。きりの中で撮影(さつえい)したようなふん囲気になります。

【うまくいくコツ】
ろ出を調整できるカメラなら、やよろ出オーバーでとると効果的です。

<かぎ穴のをぞく>

黒い紙のまん中にかぎ穴の形を切りぬき、レンズの前にかざして撮影(さつえい)します(アクリル板は使いません)。かぎ穴から、となりや部屋の中のをぞいているような画面になります。また、かぎ穴ではなく、円をふたつ重ねて切りぬいた黒紙を使えば、双眼鏡(そうがんきょう)でのぞいているふん囲気になります。

<台風中けい>

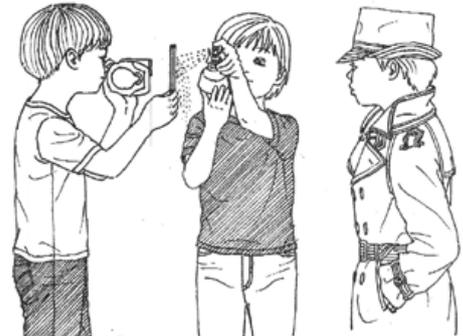
アクリル板の表面に、きりふきで水てきをかけながら撮影(さつえい)します。役者にレインコートなどを着て演技してもらおうと、まるで台風の時の現場中けいのような映像になります。



ワセリンを使って、めまいなどを表現する



黒紙をかぎ穴の形に切って、かぎ穴からのぞいているようにとる



きりふきを使って台風中けいを表現する